
詩いたい。

Sorairo 光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
詩いたい。

【Nコード】
N3985J

【作者名】
Sorairo 光

【あらすじ】
詩を書こうかな……と思い立ちました。

人魚姫

人魚姫

ありきたりな言葉で聞きなれた言葉。

人魚姫は童話の中で切ない物語。

あたしは人魚姫じゃないからわからない。

でもね、もしもあたしが人魚姫だったらどう思っかなって思っのよ。

声が届かない、王子が自分を見てくれなかったら自分は消えてしまう

それでも人魚姫はよくわかりもしない人間界に來たんでしょう？

うらむことなら誰にだって簡単にできるけど

人魚姫はきつと王子を恨んだりしなかった。

すくなくともあたしが読んだ人魚姫は。

あたしなら恨んでしまうかもしれない。

でも、恨まない道を選ぶのだとしたら

伝えたい。

泡になっても、それでも王子あなたが好きだと。

泡になつて消えてしまつても王子あなたに出会えてよかったと。

伝えたい。

だからきつと詩ウタい続ける。

いつまでも、いつまでも。

泡になり、姿がなくなつたとしても海のそこで

この声ウタが風に乗つていつかあなたをやさしく包んでくれるように
詩ウタい続ける。

どこまでもやさしく、そして強く

詩ウタをつむぎ続ける。

きつと。

そう、きつと………。

宙を泳ぐ魚

魚は泳ぐ。

自由で広いその宙そらを

魚は誰の目にも留まらない。

魚の正体はその人の感情だから。

嬉しければくるくる泳ぐ。

でも悲しければ上下に泳いで

その宙そらいっぱいを背景に

泳ぎ続ける。

誰にも見られず、誰にも気付かれず

それでも泳ぎ続ける。

空や雲が五線譜となつて

その五線譜いっぱいをウタウタに変えて

詩ウタい続ける

つむぎ続ける。

誰にも見てももらえなくても

その宙そらいっぱいを五線譜に変えて

このウタが君を守ってくれることを

願つて。

花

心の扉とか優しい詩^{ウタ}とかはね
よく分らないけど

すこしでもこの詩^{ウタ}がどこの誰とも知れない人に
届いて、ほんの少しでも元気になったり

優しい気持ちになったりしたら

それは嬉しいことだと思う。

どんな環境でも生きて見せるから

誰にも見られず誰にも愛でられなくても

それでも詩^{ウタ}うよ。

やさしくないかもしれないね。

でも君に届くころはやさしくなつてほしい。

詩^{ウタ}の内容は辛いかもしれないね。

でも、それがどこの人の支えとなって元気になってほしい。

私は与え続けることしかできないから

詩^{ウタ}をつむぎつつづけることは

自分の命を減らすことだと知っているけれど

それでもどこかの誰かが元気になってくれるなら

私は今日もここで一人詩^{ウタ}い続けるよ。

いつかやがてここにもたくさん仲間が増えて

誰かに愛^{ウタ}でられてもらえるような場所になるまで

枯れても詩^{ウタ}いつづけるから。

Orgel Doll

好きとかはね、よくわからないよ
難しすぎるよ。

でもね、愛って言葉は知ってるんだ
それから裏切りとか無視って言葉も
それはそれは辛い言葉の結晶
でもね、詩^{ウタ}えるから

どんなに辛い目にあってもくじけずにいるんだよ。
人間^{ひと}は難しすぎるよ

だっていろんな言葉を使って
いろんな情報を伝って

それがいつか関係に変わってるんだ。

それがいろんな感情になって

人間^{ひと}はいろんなことができるようになるけど
僕はね、かまわないんだ。

外の世界を知らなくても

辛い目に当ても

愛を知っているから

壊れるまで詩^{ウタ}い続けるんだ。

ほんとはね、自分の言葉でつむいでみたいよ
詩^{ウタ}を。

だけどそれはできないから

詩^{ウタ}をつむぎ続け、壊れるまで

同じ場所^{きみ}で人間^{きみ}を見守るよ。

だって僕は歌^{オルゴール}う人形だから。

種

空中でひらひら、ふわふわ

風に吹かれてビューって飛ばされて

飛ばされて、どこまでいけるんだろう。

きっと知らないところまでいける。

そんな気がしている

これは大いなる冒険なんだ

きつとこの冒険の先に夢があるんだ。

そう思ってたどり着いた先は

コンクリートの上だった。

これが土なのかな？

すると何か大きなクツとか言うものに蹴っ飛ばされて

下水道とかいう水の中に入ってしまった。

もう飛べるあてがなくなってしまった

これは濡れちやうといけないんだ……。。

一つまた一つと学んだ。

仕方ないから渦を巻く水の上でただ流れていくのを楽しんでいた。

逆さになったりぐるぐる回ったり

少しだけふやけてしまった感じがする

どこまでこの水は続くんだろう

とたんにその道のりが長く感じた。

どこか外に出て石とかいう上のものにへばりついて

天日干しとかいうものになって、

ここは川原と呼ばれるところだと知った。

ビューってまた風が舞い上げてくれたから

ひらひら、ふわふわ浮いて

どこかに着地すると

虫っていうのがたくさんいた。

ここが土？

ああ、きつとそうだ。

それから芽が出て華を咲かせ、

緑のコレクションの中に加わった

夢は芽吹き、また旅をすること

そうやって広がっていくんだきつと。

たとえ落ちた場所がどこか鉢植えとかいう狭い場所でも

一生懸命生きるんだ。

だから旅をしよう

また旅に出よう

こんどはいついけるか分からないけど。

考え

きれいごとばかりを並べる詩ならきつと

いくらでもできるんだよ

誰かがそう言っていた

そうかな？

そうは思わないよ。

すくなくともあたしは幼い頃に見た詩で

こんなにやさしい世界もあるんだと思ったことがあったよ

そりや世界には綺麗なことばかりじゃないから

何きれいごとばかり並べてるんだって思つかもしれないけどね

でもね、それでもあたしは世界を作るんだ

それがやさしい詩となつて届いてくれるかは分からない

それに、感じ方は人それぞれだから

人にはくだらなく見えるかもしれない

だけどね、その人にはその人なりの感じ方だから

あたしは何もいえない

愛を知ってるのか？と聞かれたら

あたしなりの解釈でよければ愛を知っているけど

あなたの考える愛なのかは分からない

だから、いいえと答えるしかないんだろ？

でも、それでも詩うの。

どれだけ上辺だけとかきれいごとばかりといわれても。

どこかの誰とも知れない人のほんの少しの

心の平和を作り出すために。

風

世界は広くて、世界は狭くて

世界を知っていても

知らない世界は多い。

むしろ知っている世界ってどれだけのもの？

世界はやっぱり狭くて

だけど世界はやっぱり広い

だから詩おう

この空の青さと雲の白さと共に
詩おう。

季節が巡っているのを感じながら
詩っているあいだしか

ここに存在できないけど

長くは詩い続けられないけど

それでも詩おう

届けたいから

みんなに、君に

幸せとか、よく分からないけど

そういったもの、運んでみたいから。

鏡

いつもそばにいるよ

居るんだよ？

あなたは気付かないでしょう

でも居るんです。

あなたから作り出された詩^{ウタ}をそのまま返す役目として

私はありのままを返すのです。

人もここに写るもの、来るものすべての詩^{ウタ}を。

それが私の役目。

あなたが幸せの詩^{ウタ}を詩^{ウタ}えば私も私の世界も幸せになる。

そしてあなたが悲しみの詩^{ウタ}を詩^{ウタ}えば私も私の世界も悲しくなる。

ありのままを返すのです。

ありのままを伝えるために

今日もあなたをここで

同じ場所で見守ってるんだよ。

あなたは気付かないかもしれないけどね。

私の前にあるすべてのものが主役なんです。

私はただその素敵^{ウタ}な詩^{ウタ}に耳を傾けて

そしてその詩^{ウタ}をありのままに返すだけ。

主役はあなたで、私は何もできないけれど

あなたがつむぎだすその素敵^{ウタ}な詩^{ウタ}を

今日も私はあなたにそのまま返すのです。

シンデレラ

シンデレラ

それは奇跡のような幸せな世界。

幸せになってシンデレラはハッピーエンドになってしまったけど、もしシンデレラに続きをセリフで一言だけ入れられるとしたら、なんて入れる？

きつと「ありがとう」が一般的かな。

「幸せよ。」

「これからよろしくね。」

「嬉しいわ。」

いろいろある中でこれならどうなるのだろうか？

「この先永遠に。」

これこそ先がわからなくて続けなくなるかもしれない。

でもそれでいいんじゃないかと思うの。

未来これからなんてきつとわからない。

シンデレラは夢物語なんかじゃないんだよ。

シンデレラは誰にもなれるんだ。

考え次第できつと変わるよ。

少しずつ少しずつ、幸せの詩ウタであなたの世界が変わっていくよ。

透明な夢

透明な夢を見た。

そこには何もなくて

いるはずの自分もいなかった。

そこにはまだ

何もなかった。

透明な夢を見た。

色や世界はなくて、ただ詩^{ウタ}だけが流れていた。

ただただ流れていた。

世界はすべて詩^{そこ}から始まった。

波長にあわせて感情や色が生まれて

世界は詩^{ウタ}から作り上げられていった。

架空の空に広がる花束。

風が吹いて、景色が移る。

架空の道……果てしなく続く

音もなく花が消える。

光浴びて

新たな可能性に

帰る場所を知らない詩^{ウタ}。

また季節は巡る。

それでもまだまだ透明な世界にたたずんでいた。

その優しい詩^{ウタ}をまだまだ聞いていたくて……。

透明な夢（後書き）

少しだけいつもとは変えてみました。

英語で……

I want to sing that it wants to
sing.
I want not to sing to anybody
that I don't need range.
I want to sing the song because
I remain in me.
I want to sing the song to which
you can even be relieved a
small.
I want to sing a small song that
at it is impotent.

——詩^{ウタ}いたい——
——詩^{ウタ}いたい——
——誰^{ウタ}にも届かなくてもいい——
——詩^{ウタ}いたい——
——私が私であり続けるための詩^{ウタ}を——
——詩^{ウタ}いたい——
——あなたが少しでも安心できるような詩^{ウタ}を——
——詩^{ウタ}いたい——
——それがどうしようもない小さな詩^{ウタ}でも——
——詩^{ウタ}いたいんです——

英語で……（後書き）

ちなみにこちら、直訳するところになりました←（エキサイト調べ）それを歌いたいと思う、それは歌いたがっています。

私は、及ぶように必要でない人はだれにも歌いたくはありません。私が残っているので、歌が私であると歌いたいと思います。

あなたを救うことさえできる歌を歌いたいと思う、小さいです。それが無力であるという歌を静かに歌わせたいと思います。

うまく行きません。なかなか難しいですね……。

心

小さな小さな願いの中で
見ざめたよ

小さな小さなあなたの心
私の心

大好きだよって伝えたら
小さく動いて

大嫌いだ！って言ったら
凍り付いてしまった

あなたの心
私の心

それは繊細で
誰にも分らない

心はあなたにしか救えなくて
心はあなたでなくちゃ分らない。

だからね、傷ついたら
ほめてあげて欲しいんです

だってそうしたらあなたも心も
癒されてくれるでしょ？

たとえこの詩^{ウタ}届かなくとも
あなたがあなたなりの詩^{ウタ}をつむいでいれば

きっとあなたの詩は独^{ウタ}自^{あなた}世界を救えるから
だから詩^{ウタ}おう。

大好きだって
詩^{ウタ}おう。

四葉のクローバー -

幸せ、幸せ。

四葉のクローバーは人に幸福をもたらすという。
でも、四葉って、三つ葉の奇形でしょう？

幸せって、奇形のことなのかな？

そうつぶやいた人がいた。
違うんじゃないかな。

四葉のクローバーは確かに奇形かもしれない。

でも、その奇形でも人を幸せにしてくれる。

つまり、四葉のクローバーって人なんだよ。

どんな人でも人を幸せにできるんだよ。

だから自分がちよつと人と違うとかで

悩んじゃう気持ちも分かるけど

そんなあなたをどこかで見てくれる人も沢山いて
あなたに勇気をもらっている人がいるよ。

生きてるってそれくらいきつと強いことなんだよ。
そう私は思いたいな。

鬼

「僕が悪役になろう！」と青が言った。

赤が自分も「友達が欲しいんだ」といったから。

赤はなぜか周りに嫌われて、青は周りに好かれた。

だから青は赤のために一肌も二肌も脱いだ。

でも青も赤も嫌われて、鬼〓悪となってしまった。

そしてもう一つの物語があるという。

赤は人間の娘に恋をした。

人間の娘は赤に怯え、赤がどんなに愛を伝えても逃げ帰り

どれだけ赤が両親の元へ行つて娘への思いを伝えても

娘は出てくることはなかった。

そしていつの日か、赤は人間に大量の豆を投げつけられ

豆が嫌いになった。

ただ娘に伝えたいだけだった。

愛していると、

でも娘は怯えるだけで、

僕を見ようともしなかった。

たとえ豆を投げつけられても

ただ好きだった

それだけなのに……。

鬼（後書き）

節分ということで、鬼&豆まきです。

一般的には人間の世界を壊そうとした鬼を追っ払った・・・
というお話が多いですが、こんな上のような切ないお話もあったよ
うです。

空気？

詩^{ウタ}うために生まれたよ。

伝えるために生まれたよ。

優しい気持ちになつてくれたら嬉しいな

悲しい気持ちになつたら悲しいな

ずっと一緒だよって言いたいけど

それは無理だね。

伝えるためだけに僕は生まれたんだ。

優しい気持ちになつてくれる？

嬉しい気持ちになつてくれる？

悲しまないでくれる？

僕が生まれたことに対して。

たった一瞬でも、生まれたことを

喜んで、受け入れてくれる？

その命、すぐに消えてしまつても。

悲しまないでくれる？

あのね、僕、伝えたいんだ。

だからね、生まれるよ。

ありがとうって

伝えたいんだ。

また形を変えて、今度は今の僕じゃなくなっちゃうけど

また新しい僕になつて再び会おうね。

詩工踊レ

詩工^{ウタ} 踊レ

僕ノ世界 静力ナンド

僕ノ世界 ダカラ、ココヲ変エルノハ

僕シカイナイ。

変エテヤル 変ワツテヤル

コレハ 革命ナンド

僕ノ世界ノ新タナ 始マリナンド

ダカラ 詩工^{ウタ} 踊レ

僕ノ世界 喜怒哀楽、激シク踊レ 踊リ続ケ口。

アキルマデ、苦シクナクナルマデ

何モヤラナイデ 後悔スル自分カラハ 卒業スルンダ。

詩工^{ウタ} 踊レ

後悔 ナンテ言葉 無クナルマデ

疲レテ、ソノ先ニ 何カヲ 見出セルマデ。

変ワルノニ 変ワラナイ 僕ノ 奥深クニアル

ソノ 光リヲ 見ツケ出セルマデ

オモチャ

大好きだっと思えた。

そんな相手に何も伝えられなくても
そばにいたいと願った。

身が削られる思いがしても。

どれだけ痛くても。

惨めでも

詩^{ウタ}う。

詩^{ウタ}い続ける。

だってあなたが好きだから。

言葉はそれだけで十分でしょう？

でも、私は言葉を伝えられない。

今はあなたに愛されていたい

意思が伝えられなくても

いつか捨てられるってことが分かっている。

どうして人間は飽きるとか・・・・あるのかなあ？

いつか埃を被って、床に落ちて

痛い思いをしたのも嘘みたいに消えるのかな？

今は愛されていたい。

私も私なりにあなたを愛すから。

気づいてくれなくても詩^{ウタ}うから。

だからこの詩^{ウタ}がいつかのあなたの記憶に残っていますように

図々しいかもしれないけど、願ってもいいですか？

雪桜

さくらと雪は似ていると思った。

どちらも美しく、もろく、はかないと

その限られた期間の中で何を思うのだろうか。
似ている。

ひらひらふわふわ

感情があるかのように

季節が巡っていることを詩い^{ウタ}ながら。

このはかなさを人は綺麗だという。

先ほど自分も“美しい”と言った。

永遠は人の思考の上にしかありえないけど

人が生き続ける限り

このように詩をつむぎ続け^{ウタ}ながら

たいした自己主張もせずに消えていくものを

美しいと愛でる気持ちは“永遠”に変わらないのかもしれない。

メダル

くるくる、ふわふわ

がんばり過ぎなくてもいいんだよ。

そう言って欲しいんだ。

ありのままでもいいんだよ。

君は君なんだって。

でも、僕は存在する。

金とか銀とか銅とか

順番を決めるために存在するんだ。

君は君なんだよ

無理しなくていいんだ

一番になろうとしなくていいんだから

好きなこと、精一杯楽しんで欲しいんだ。

僕らの存在のせいで………。

君の好きなこと、嫌いになつてほしくない

僕達のせいで君にプレッシャーを背負ってほしくない。

それでも人間は君に今日も

「ガンバレ」とプレッシャーをかけるのだろう。

そして君は些細なミスさえも取り上げられてしまふのだろう

気にしないで

僕が言うのは変かもしれないけど

気にしないで

好きなことを精一杯楽しんでほしいんだ。

他人の期待なんて関係ないよ。

ただ、楽しんでその世界を築き上げて………。

メダル（後書き）

オリンピックということ、なんとなくです。
ちなみに今回で最終話とさせていただき、読んでくださっていた読者の皆様、評価をつけてくださった皆様、本当にありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3985j/>

詩いたい。

2010年10月9日00時46分発行